高校阿部野新聞

発行所
大阪市阿倍野区北畠
大阪府立阿部野高等学校
新聞部
発行兼編集者
澁谷和一
印刷所
大阪市福島区上福島
北二ノ五
三信印刷株式会社

理想と情熱の結晶

高らかに響く記念祭歌

本校第三回記念祭は意氣天をつく若人の理想と情熱の結晶として去る十月二十二日の体育祭を皮切りに蓋を開け、堂々奮斗の二年生に優勝杯は輝き体育祭の幕を閉じ、同夜には青春を謳歌する若人の歌聲がフィアイヤー・ストームと和しての團結に我が傳統を祝福し、文化祭はさらに二十八日その堂々たる全容の幕を開いて各方面學生文化の結晶を演劇會に音樂會に展覽會に多彩なるプログラムを二日間に亘つて繰り展げる。

我等が文化の祭典開く！

全てが生徒の手に

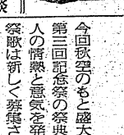
本年度後期自治会成立するや期末考査中にもかかわらず目前の記念祭に向つて準備委員会の結成を見たことは既報の如くであるが、そ

（兩準備委員会の結成を見たことは第十五号既報の如くであるが、そ

緊急議会を開いて体育祭、文化祭の後自治会役員側に於いては着々と準備が進められ、去る十三日の教員会議に於いて学校教職員側の役員決定を見た時までには、共に準備委員会の責任を負うべきおり新たに全議員並びに部会役員による體祭典並行委員会の新編成が行われ、準備委員会の計画準備を土台として体育祭並びにフィアイヤー・ストームの夜の祭典は二十二日生徒自らの血潮たぎる情熱の中に盛大に挙行され盛會裡に青春の祭典の幕を閉じたが、きよう開く文化祭はまた急迫した予算の上に立てられたプログラムながらも超高校級を行く祭典として各方面の注目をあびて開会される。

澁谷文化祭總務部長談

第三回記念祭として華やかなる体育祭の後を受けて三日間に亘つて文化祭が行われるが、第一に書様に考えていただきたいことは、華やかな祭典の陰には役員諸君の血のにじむような苦労があることを認識していただきたい。次にプログラムの方に於いても出來得るかぎり各方面生徒の意見を汲んで進行上にも注意をはらつたつもりであるから、理想を目指す高校生らしく会場ふん囲氣をわさないよう心得てほしい。



募集当時を顧り見

今回秋空のもと盛大に挙行された第三回記念祭の祭を祝福し、若人の情熱と意氣を発揮させる記念祭歌は新しく募集されてこに澁谷和一君の作が選定された。

澁谷文化祭總務部長談

第三回記念祭の後を受けて文化祭が行われるが、第一に書様に考えていただきたいことは、華やかな祭典の陰には役員諸君の血のにじむような苦労があることを認識していただきたい。次にプログラムの方に於いても出來得るかぎり各方面生徒の意見を汲んで進行上にも注意をはらつたつもりであるから、理想を目指す高校生らしく会場ふん囲氣をわさないよう心得てほしい。

記念祭歌決定

澁谷和一君當選

募集当時は正にものみなそめわたり、思索し沈潛し藝能に学問に精進する最適の秋である。一方ではわれわれの心身をねり磨く体育祭あり一方では叡智のさえをひらめかす文化祭のあることはまことに時宜を得た意義深いことである。さて準備運営にあたつてはいろいろ反省すべきことが多くある。学校行事の主体となるべき自治会役員の交替が十月初にあり、体育祭に於て高かさ遇間文化祭に於て四週間の日数しかもたれず、且はまた期末考査を九月末より十月初に控えて三年の卒業旅行などの行事相重なる悪條件のため、準備進捗せず、この点来年度は学校行事の日取に

澁谷和一君談

私は文化祭の責任者として記念祭歌募集を昨年の二度足を踏まないようにといわは義務的に作ったようなもので、当選したとは意外です。審査に立会っていないのでわからないが多少國語科によって修正されて立派になったのでこの喜んでいる。

澁谷文化祭部長談

今回の歌詞が口にする言葉であるが「締め切りは締めるのだ。遊ぶ時には遊ぶのだ」これを誤判してはならない。所謂その環境に順應しなければならない。いかに本分とはいえ体育祭、文化祭当日まで閉じこもって勉学する必要はないであろう、然しまた如何に学校中がお祭騒ぎにつられ出したとはいえ学生としての自覚を忘却してはならない。最も大切なことは学生としての自覚なのである。

最後に物事を何事もうるさく考えて不熱意な消極的な態度をとる人々に對してこれを機会に再び反省計部にもどらねばならない事にあり。

澁谷和一君談

私は文化祭の責任者として記念祭歌募集を昨年の二度足を踏まないようにといわは義務的に作ったようなもので、当選したとは意外です。審査に立会っていないのでわからないが多少國語科によって修正されて立派になったのでこの喜んでいる。

屋内革靴緩和か

西元新風紀部長語る

第十五号で既報した如く、自治会風紀部長談議は、十四日第一回定例議会において正式に辞任を申し出で、風紀部内で審議した結果それが認められた。その後直に同部内で互選、結局後任は西元風紀部長に決定した。

そこで新しく就任した西元部長に今後の風紀取締り等について聞いてみた。次はその要旨である。

西元風紀部長談要旨　湊さんにやってもらえれば、彼は三年生であるので取締りの方は都合よく行ける風い安心していたが、湊さんには何分受験と云う問題が控えているので、自分も学校の意を思って立つたわけで、上級生に割してはやりにくいが、一度風紀部長になったからには全力を挙げてやって行く覚悟である。政策面については未だよく考えていないが、下駄の問題については、下駄箱もない事とてはき変えた後の履き場所も一定し得ず、又住吉の方では許されているので、本校に於いてもやむ綴和してもよいのではないかと考えている。然し下駄はきの事については取締る決心である。われわれ本年度後期自治会役員側に於ては出來る限り大規模なる祭典をという意氣、加うるに役員は執行委員と負担にしたいとの意向で、昨年の PTA 会費一人一百円を本年は一人一百五十円という完賀心が、また役員諸員は何度も徹夜で種々の準備に立ち働き、親の反對までも自己の尊大な愛校心によって闘踏させ準備に專心したいというが如き、はなやかなる祭典の陰の美談をも決して見過してはならないのである。

役員は学期休暇は勿論、土曜、日曜の休日を返上しての準備に廣告とりに、日夜を徹して市内をかけめぐっている反して一般生徒の間には、祭典に加り、その意義を感じて盛大なる祭典を謳歌するならばまだしものと正当な理由なくして

澁谷文化祭部長談

昨年に引き続いて聖火の発行が行われるが、同原稿募集が比較的早く始められたとは内容を充實させる点からも特に好ましくまた本年度は昨年度と異つて予算も組んであるとの故、健全に資金の回収も出來るだろうと今から期待をかけている。一方昨年は何分始めてのためもあり各方面より文藝部の機関紙たる國語により文藝作品が かたたくさんいただけれども今回はそのような弊害をなくして自治会の文化雑誌として廣く一般の投稿を多く期待、その眞の生徒の文化の結晶としたい、よりよいものの創造に繋くしていただきたい。

PTA 第三回總會

PTA 第三回総会は去る十月十八日本校講堂において開催されたが二百数十名の父兄の出席を得、上半期決算報告の後更生字寮響議を行い、運動場拡張問題についての報告があり会員による協力が要望されて総会を終了、各学級毎に級担任との懇談後散会した。

昭和二十五年度前期 PTA 会計收支決算左の如し。

收入の部
一、一四三、九三九円一八銭
收入総額
一、一四三、二六〇円
前年度より繰高
一、三三九円一八銭
支出の部
一、一四三、九三九円一八銭
支出総額
九一五、一〇一円四〇銭
差引
二二八、八三七円七八銭

我等が文化の祭典

美と健康の祭典を！

學校長　志賀平

わが阿部野高校が再生してから早くも三年の歳月が流れ三回目の記念祭はめぐり來つた。お互にとつて忘れることのできない苦難に充ちた荊の道を辿つてきた。双葉のうちから、いつ命脈を摘みとられるともわからない心細い存在であつた。校舎を與えられず間借りの生活に肩身を狭く過ごした朝夕であつた。

今や情勢は轉換した。明年の全貌は何時を明るい見通しで迎えるばかりである。

しかし苦難の中にもお互は磨かれてきた。われわれはたしかに成長してきた。

記念祭は學校の生命を年々に刻みつけていく道標となるであろう。

一千名の生徒諸君が若さと力と情熱を投入れる美と健康の祭典であつてほしい。昔の祭典は神の權威と恩寵につながるものであつた。今日の祭典はミユスト的な色彩を洗い落した。とは言えわれわれの血管の中には何か絶對的なものに対する郷愁が脈うつている。

人間至上では割りきれないものがあり、自己の弱さ、はかなさを知るが故の虚靈さを思慕せざるを得ない。若い情熱の中にも、何ものをも恐れない大膽さと同時に眞理の前に頭をさげる素朴さを持ちたい。

祭典はできる丈にぎやかに愉しく秋の行事の最高峰であつてほしい。千名の生徒諸君が心から睦み合い助け合う。友情と互助につらぬかれたものであつてほしい。

運動場擴張具体化

舊校舍近接地を

本校発足以來の悩みであつた校舎問題は、一應本年六月に市より返還するという條件であつたが、その後準備好轉せず現状では校舎復帰は明年三月に成立する予定であるが、一方運動場拡張問題がPTAにおいて積極的なる働が行われて來たが、今回旧校舎隣接地地主より府に對して同地移管希望の申し出でがあり、学校当局並びにPTAではその朗報に色めき立ち、いよいよ運動場拡張問題も確定的となり去る十月十八日のPTA総会において報告された。

本紙第十号において旧校舎復帰は早くて本年六月遅くて九月と報道したが、種々なる予算上の問題もあり未だに旧校舎使用中の市立文化部の機関紙たる國語により文藝作品が 一般に紹介されないままになつており、明年三月には実現の予定となつているが、本校が校舎復帰して最も困難視される問題としては、旧高等女学校の運動場は一般に狭隘であり、本校の場合もその例にもれず、学校側並びにPTAではその問題を重大視し、以前より旧校舎附近の空地交は本野線沿線の土地、即ち平野方面の土地等を交渉中であつたが、適当な土地がなかつた折から、近接空地地主より、同地移管の申出があり、志賀校長の方へ連絡があつたが同地は約二八〇〇坪あるが、その中には道路及び数軒の家屋がある。また同地隣接地として三〇〇坪の空地があるので合計二一〇〇坪となり、これらを府で買収して貰いたい志賀校長を始め、PTA現会長吉田氏、前会長鍜田氏、PTA施設拡充委員長木氏等で猛運動を展開した結果好轉して入手の色濃厚となつたが、これは役員のみの努力では實現はむつかしく、全生徒並びに全PTAの協力が必要であると関係者では絶大なる協力を希望しているが、ゆくゆくは同敷地内の道路は市と交渉し、また数軒の家屋は疎開してもらおうという予定なたてられている。

運動場拡張問題

運動場完成のためにPTA総会は運動場拡張費特別会計予算を計上して、十月より明年三月に至る六ケ月間に生徒一人当り月額百円を徴収、六十万円の予算を決定している。

市内各高校運動場擴張に盡力

参考のために他校の運動場拡張状況を附記すれば、前身が女学校である高校は共に急速な運動場拡張運動を展開しており、清水谷高校では既に一〇〇坪の鉄筋収容を完了先日運動場開きを挙行して居り、大手前高校に於いても一〇〇〇坪の土地交渉が完了して居り、また夕陽丘高校に於いても附近に民間運動場が建設される予定でそれを使用する交渉がついている。

聖火　第二号　原稿募集開始
發行は十二月中旬か

我等が校章に仰ぐ聖火を文化祭の象徴として名付けられた自十月十日の文化雑誌〝聖火〟は昨年末九治余賀の名実共に堂々たる内容を盛つて創刊された昭高校級として各界に話題を投じ注目の的となつたが、本年度は同様話題についても予算会議に於いて自治会本部予算に聖火発行費が組まれて健全性を発揮し、文化祭にがいても、級担任の指導のもとに、各学級毎に、各学級毎に、各学級毎に

全校統一ユニフォームを

体育後援會積極化

昭和二十五年前期が初まつて間もない六月の或る日、体育後援会は華々しく再出発して、茲に五ケ月有余、我々の感の体育後援会は我々に何を爲したか。一部詳細は本紙第十三号に発表したが、茲に再び、その後の活動を打診してみよう。

さて、現在の入会者数は二百二十二口で、これは授業料納入傳票に合併して徴金するので二十二万二千円は多少の変化はあつても確實に確まるとの事。然し体育後援会の理想額二〇万円には程不足つている。約一五万円（一五〇〇）は遠いみの会費収入、約七万二千円で、すでに支出は収入を上廻つている。現在徴金済の会費は、約七万二千円で、何PTAより二万円を借つている。現在迄のこクラブ（野球・卓球）で若干金はハガキ（歓誘状用）等に使用している。

然し去る頃開かれた第四回府民祭合体青大会への費用に金然出していないのは府一選手権大会等には、今の所財源が不足しているので、今しばらくの辛抱との事。又運動部からの希望があれば、金子体育後援会々長は記者の訪問に次の如く語つた。

金子体育後援会々長談

校統一のユニフォーム位は作ろうとの事、実現の日も近い事だろう。

昨年から発足しました体育後援会も本年に入り猛活動の結果、二二口の個賛同を得て著々活動を開始したいと思つております。今日迄は野球部に對してユニフォームを新調して差し上げたのみで、各部に均等に援助の運びには至つていないのですが、近い内に部長会議を開いて選手諸君の平素の努力に酬いたいと思います。大体発足当時は選抜選手の選征諸経費の補助が目的でありましたが、一方各部に無理のない援助も必要と思いますから優秀なクラブから重点的に整備したいと考えています。

一般の方に眼解のない様に一言したい事は選手のみに優遇して居るではないかとの聲もある事と思いますが、学校を代表する選手諸君の努力はやがて学校全般の体位向上のエネルギーとなるのですから皆さんも我々体育後援会員と共に選手諸君の平素の努力に對して絶えざる御援助を願います。

全賞杯・楯一手に

二年生中堅の美を發揮

昭和二十五年十月二十二日——阿部野高等学校自治会主催第三回体育大会は、茲に華々しく開催された。明くれば前日の曇天候は一風と共に拭い去られ、近来稀れに見る秋天高く晴れわたり佳き日。八時半、堂々の入場——開会の辞と共に一年中の腕試し体育大会のフェヤー・プレーの幕は切つて落された。若人一千余の情熱の壁は運山に木霊し会場をゆるがせば数百の観衆熱狂して拍手を送り、選手一同全力を挙げて栄誉の冠を双肩に健斗プログラムは少々の遅延を見せたが、とたんにおりなく全競技を終了、学年対抗総合の結表あり、二年生は中堅の美を充分に発揮総得点二五六・五を以つて堂々優勝、又男子優勝一五一・五、女子優勝一〇五と何れも二年生が獲得した。

かくて今年より作られた三つの優勝杯は、銀色の光りもあざやかに万雷の拍手と共に全てが二年生によつて占められた。

又此の日の呼び物五千米競争は、個人優勝の楯をかけて各学年選手は頑張つたが、二年生のホープ藤田君が三年生の強豪を押さえて獲得した。尚之によつて二年生は四十八点を獲り、他を大きく引きはなして優勝の因と爲した。

青春の情熱に湧く

体育祭終了後一時間の休憩つて若人の意氣と情熱とを力いつぱいに爆散する第二回フライアー・ストームは張切つた拍手に依つて開始された。

この度のストームは未経験の一年生を加えてその進行が危ぶまれたが時が進むにつれて会員の心が一致し見事な進行ぶりであつた。舞身はくたくたにして迫る心は背春の情熱に湧く体内を断け廻つた。九時閉家々君が代々火々々鑑の光々と共に火は消えて行つた。

寫眞は閉會式の壮美

文化訪問

生きて行く人々

子規隨想

石原千里

私が生き行く人々のテーマに對はありません、彼の随筆病床六尺して故人正岡子規をあげましたのは、単に彼が明治の代に於いて、和歌、俳句或ひは文章の一大革新を行つたという事のみに負うのではありません。あれ丈の大きな仕事をなしとげた彼が、その為に病を得、五体の自由を奪われながら尚随筆に生きようとしたその努力に敬服するからであり且彼の随筆に見られる皿の通つた動めきを知りたいと思つたからであります。

正岡子規は伊予の松山に生れ一高を経て東大に学ぶ途上退学し文学に憧憬したのでありますが彼の学生時代を見ますと実に子規らしいエピソードが在ります。例へば彼は高等学校の折一展落第をしたのでありますが学に上り又もや彼が唯文学にのみかたまつた為に落第をしかけ自殺したというのです。今、彼らしい仕草でありますが、彼の病床が余には興過ぎるのである。確かに手を延ばして壁に触れ得る事はあるが、蒲団の外へまで足を延ばして体をくつろぐ事も出来ない、甚しい時は極端の苦痛に苦しめられて五分も一寸も体の動けない事がある。

苦痛、倦怠、号泣、嘔吐、確かに一條の活路を死路の内に求めて少しの安楽を貪る果敢なさ、其れでも生きて居たいと思つたのです。

「病床六尺これはいゝたいもので、云々」とありますが、我々日常の少々の病に経験することの出来ない苦しみが見られ号泣又号泣に至つては想像もつきかねることであります、これ丈の文の中にも六尺の病床にあつて、病床の句闘病生活の歌という題目の下に、

痛切に感じ時には何故この矛盾の多い世に生れて来たのかと親を恨みやゝもすれば長い人生から考えれば一時とした些細な事に過ぎないのに気力を失い、自己を軽視し死をその逃避のよい所と選び、死を讃美し、死をあこがれて自殺い生命を絶つて生きたがる、文廃頽的な感情を興して社会の総に對し反感のみを持ち、不健設的態度に以つても、意気と合理的な理性とを失つた。

「病床六尺」は、例えば当代の我々の最大の欠点である、踏ん張りがなくて理想と現實とのあるべきなへだたりに苦悩し己が軽蔑する人物に又我と我が身を落として行くといつた、悪人生の目的が何であるかを忘れた唯一時のがれの一時の享楽に走る——して我々に思わぬ様に只々碍ばかりは稀々よきものをほしいと思つていた。中略……碧潭振の其の亡兒黄塔の碑略……碧潭振の其の亡兒黄塔の碑を持つて来て貸してくれた。其の碑は一面を三方に溝の如く彫り、他の一面は芭蕉の葉を沢山に彫つてある。確かのかたみであることが、何となくなつかしく感ぜられ朝夕枕もとに置いてねながらのながめをもたらしてくれる。

酔汁のかゝり芭蕉の傘葉かな

芍薬は散りて碑の埃かな

五月雨や蕾き碑石借り得たり

「病床に寝て、身動き出来る間は、敢て病気辛しとも思はず平癒を渇望んで居つたが、此頃のやうに、身動が出来なくなつては精神の煩悶を起して、殆ど毎日気違の様な苦しみをする……中略……一日の苦しみは夜に入つてやうやう減じ眠かに眼瞑じた時は其日の苦痛が終るやにはに盗覇寝起

つたぎらひはありますがしかし六年余の病の日をひるます、恥ます恥をよみ或部を加え日常の思考に時を費し臨床の間日迄授して功人、左千夫、碧梧桐、虚子等に師記させてその道に精進する様は何とも名状し難い感に襲はれます且つて芭蕉は——子規と芭蕉の俳句の行き方は異るものがあるのですか——死出の旅に旅に病んで枯野をめぐる夢心と

跡み更に苦しい息の中から旅に病んで夢は枯野をかけめぐると記正したと傳えられて居ります。

手規も小口見悲壮に見える稍進の中に見られ高い理想を持つて居りました。

「生」については常に我々の内で繰返される議論のテーマでありますが「生は悩み」の言葉を

持たずして秩序を乱す、例えば当代の我々の最大の欠点である、踏ん張りがなくて理想と現實とのあるべきなへだたりに苦悩し己が軽蔑する人物に又我と我が身を落として行くといつた、悪人生の目的が何であるかを忘れた唯一時のがれの一時の享楽に走る——して我々に思わぬ様に只々碍ばかりは稀々よきものをほしいと思つていた。中略……碧潭振の其の亡兒黄塔の碑略……碧潭振の其の亡兒黄塔の碑を持つて来て貸してくれた。其の碑は一面を三方に溝の如く彫り、他の一面は芭蕉の葉を沢山に彫つてある。確かのかたみであることが、何となくなつかしく感ぜられ朝夕枕もとに置いてねながらのながめをもたらしてくれる。

酔汁のかゝり芭蕉の傘葉かな

芍薬は散りて碑の埃かな

五月雨や蕾き碑石借り得たり

「病床に寝て、身動き出来る間は、敢て病気辛しとも思はず平癒を渇望んで居つたが、此頃のやうに、身動が出来なくなつては精神の煩悶を起して、殆ど毎日気違の様な苦しみをする……中略……一日の苦しみは夜に入つてやうやう減じ眠かに眼瞑じた時は其日の苦痛が終るやにはに盗覇寝起

各クラブが誇るこの内容

堂々全國新聞展の偉容

きよう二十八日開く自治会主催第三回文化祭を飾る、各文化クラブ発表展覧会は、各クラブ共に一年ぶりの展覧会のことと、共に観覧のうちにわれこそはと腕によりをかけての堂々の内容を誇つているが、その参加クラブの計画と準備ぶりを紙上に紹介しよう。

新聞

展覧会の花形と、それによつて観覧者各位に全國的目される新聞部は展覧会場のトップを受け給つて、本館二階第十五教室に、その最も主なるプログラムは同部の誇る全國連絡網より蒐集したる北は東北・北海道より南は九州南端鹿児島に至る全國各地方高等学校の学校新聞の紹介を大々的に全國高校新聞展と名打つて挙行、解を一層深めるため新聞の出来るまでと題して写眞と解説によつて新聞の取材から発行に至る過程を報じ、新聞の使命の如何に重大であるかを知らしめる種々統計を始め、本校の高校阿部野新聞の発展歴史を展覧する他、新聞新用語の解説等一目で新聞と民主主義とを結びつける重要性を感知せしめる会場を作りあげている。

茶道

年日は廻りめぐつて例年の様に今年もすでに体育祭も終り文化祭が松隈先生、渡辺先生を顧問として高校新聞展会場になるので家庭クラブと共に新館二茶室を設け、お茶・お茶菓子を出して父兄の方々をお迎えする。机、椅子の茶室では少し変な所もあるだらうが精々利用して欲しいと部長さんは云つている。

繪画

現在では発表の機会を展覧会と画廊以外に持たない絵画クラブとしてはこの会を飛躍の機会として最低一人三点を出品しました。なこの出品は単に練習の結果を発表するというより以上に各個人としては努力の幾倍かの力を真へてくれました。目標として一昨年に比して少しでも大きな作品を仕上げようと会員努力して居ります。一年生はやゝ低調ぎみである。しかも此の六人はなく美術愛好する人はこの際より一層美術に関心を持ち大なるフン起を望みます。

華道

風流なもの、一つである華道部では、今日の展覧会に於いて、華道部のみで一部屋を使用出来る程部の余裕もないし、又も一部屋を華道部のみで使用すれば作品一つ一つに適した掛軸も必要になつて来るので、華道・絵画と共に出品する。主として二、三年生が出品し、花瓶は各自が家から持つて来たものであり、花はその各々に適したものであり、花はその各々に適したものを使用している。これは、各々の花瓶に適した花の選び方・生け方をより一層よくする為のものである。

生物

例によつて例の如くと云ひたいが出品物はいつも大変ムダに同じではこの昆虫標本は今年は新制中学生にも理解できる解説をつける様にと、同クラブの一部明なる部員の発案により行われることになつたほか、進化について、又遺傳について、そのほかイモリをつかつた破殖等、種々多彩な発表をこころみているから、ゆつくりと観覧して欲しいものの一つともいえる。

家庭

本校家庭クラブでは、今度の文化祭にのぞんで、教師の手を煩わさず生徒達が自主的に行つた。近藤学校動向の最新ニュースを提供は展覧会場のトップを受け給つて、本館二階第十五教室にその最も主なるプログラムは同部の誇る全國連絡網より蒐集したる北は東北・北海道より南は九州南端鹿児島に至る全國各地方高等学校の学校新聞の紹介を大々的に全國高校新聞展と名打つて挙行、解を一層深めるため新聞の出来るまでと題して写眞と解説によつて新聞の取材から発行に至る過程を報じ、新聞の使命の如何に重大であるかを知らしめる種々統計を始め、本校の高校阿部野新聞の発展歴史を展覧する他、新聞新用語の解説等一目で新聞と民主主義とを結びつける重要性を感知せしめる会場を作りあげている。

茶道

年日は廻りめぐつて例年の様に今年もすでに体育祭も終り文化祭が松隈先生、渡辺先生を顧問として高校新聞展会場になるので家庭クラブと共に新館二茶室を設け、お茶・お茶菓子を出して父兄の方々をお迎えする。机、椅子の茶室では少し変な所もあるだらうが精々利用して欲しいと部長さんは云つている。

繪画

現在では発表の機会を展覧会と画廊以外に持たない絵画クラブとしてはこの会を飛躍の機会として最低一人三点を出品しました。なこの出品は単に練習の結果を発表するというより以上に各個人としては努力の幾倍かの力を真へてくれました。目標として一昨年に比して少しでも大きな作品を仕上げようと会員努力して居ります。一年生はやゝ低調ぎみである。しかも此の六人はなく美術愛好する人はこの際より一層美術に関心を持ち大なるフン起を望みます。

華道

風流なもの、一つである華道部では、今日の展覧会に於いて、華道部のみで一部屋を使用出来る程部の余裕もないし、又も一部屋を華道部のみで使用すれば作品一つ一つに適した掛軸も必要になつて来るので、華道・絵画と共に出品する。主として二、三年生が出品し、花瓶は各自が家から持つて来た